

## 平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 Ⅲ 】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都府立 南山城支援学校	全校生徒数	241名
実践学年、部、講座等	小学部・中学部・高等部 全学年		
目 標 (ねらい)	オリピズムの観点(○印) <重複可>	友情 ( ○ )	卓越 (   )
	尊重 ( ○ )		
実践内容	<p>1 校内での「ボッチャ」普及</p> <p>(1) 専門家による講習会の実施 大阪府立大学総合リハビリテーション学類 助教 片岡正教 氏(日本ボッチャ協会事務局長)を招き、講義・実技を行った。参加対象は本校教職員だけでなく、近隣他校教職員にも参加を募った。</p>		
	<p>2 交流及び共同学習での「ボッチャ」実施 (高等部)</p> <p>(1) 障害の有無にかかわらず、さまざまな人との交流 障害の有無にかかわらず皆で一緒に「ボッチャ」に取り組んだ。</p> <p>(2) 本校生徒の役割 本校生徒が高等学校の参加生徒に対して、競技ルールを説明したり、競技中にアドバイスを送ったりすることができた。</p>		
	<p>3 「京都障害者ボッチャ大会」への参加 (1/20現在)</p>		

<p>実施上の留意点等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校外で実施している講習会への参加 京都市障害者スポーツセンターで実施される「ボッチャ」講習会へ参加し、教職員の理解を深める。</li> <li>2 学習活動での「ボッチャ」実施 学習活動で定期的に取り組むことで、レクリエーションではなくより深く「ボッチャ」の理解を目指す。</li> <li>3 競技大会でのOPクラスへの参加（京都障害者ボッチャ大会） OPクラスへ生徒が参加することで、チームの仲間との協力や相手チームとの交流が図れる。</li> </ol>
<p>主な成果 (分析結果)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の変化       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)「ボッチャ」がパラリンピック種目である認識が深まり、競技に取り組む児童生徒の姿に積極性が生まれた。</li> <li>(2)交流及び共同学習での取組を通して、他者を理解・尊重する資質や能力を身に付けることができた。</li> </ol> </li> <li>2 指導者の変化       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)講習会を通して競技性やルールについて教職員の理解をさらに深めることができ、学習活動における「ボッチャ」指導につながった。</li> </ol> </li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div>
<p>主な課題等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全校的な普及       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)現在は高等部を中心とした取組だが、全校的な普及や縦割り交流での「ボッチャ」をさらに普及させたい。</li> </ol> </li> <li>2 競技大会への積極的な参加       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)競技大会への積極的参加を視野に入れ、ルール理解等の教育及び指導を強化していく。</li> <li>(2)近隣で行われる大会へ参加申請できる生徒の育成を図る。</li> </ol> </li> </ol>